

防衛大学校七十周年記念式典・
観閲式における防衛大臣政務官訓示

防衛大学校七十周年記念式典にあたり、防衛大臣政務官として一言申し上げます。

まず、本日もご列席のご来賓の皆様、学生のご家族・ご親族の皆様におかれましては、防衛大学校、さらには防衛省・自衛隊に対して、平素から多大なご支援、ご協力を賜っておりますことに、心から御礼申し上げます。

現在、国際社会は、戦後最大の試練の時を迎えています。ロシアによるウクライナ侵略は、普遍的価値に基づく国際秩序の根幹を脅かす暴挙であり、断じて認められません。また、こうした国際秩序への挑戦は、欧州のみの課題ではありません。中国は東シナ海や南シナ海において力による一方的な現状変更やその試みを続けています。北朝鮮はこれまでにない高い頻度で弾道ミサイルの発射を繰り返し、我が国上空を通過させる形での発射も強行しました。

このような中、本年、防衛大学校は創立七十周年という節目を迎えました。現在、我が国は、新たな国家安全保障戦略等の策定に向け、検討を進めておりますが、防衛力の中核となるものは自衛隊員であることに変わりはありません。

先日、私は防衛大学校を視察し、学生達と懇談をいたしました。ある学生は、開校記念祭について、新型コロナウイルス感染症に負けず、家族に、未来の後輩に、防衛大学校の魅力や日々の努力を発信したいという強い思いを語ってくれました。様々な悩みを抱えながらも、将来幹部自衛官となり、我が国を守るため、必死に自己を高めようとする諸官の姿に大変心を打たれました。私たち政治家もそうした思いを受け止め、諸官と共に、我が国の安全保障に貢献していきたいと思っております。

引き続き、将来幹部自衛官となる諸官におかれては、一人一人が果たすべき責務と国民からの期待がより大きなものとなっていることを自覚し、一層の教育訓練に励まれることを希望いたします。

最後になりますが、久保学校長をはじめとする教職員各位に対し、日頃より多大なる情熱をもって学生教育に尽力されていることに敬意を表すとともに、引き続き前途有為な学生の指導に誠心誠意あたられることを希望し、私の訓示といたします。

令和4年11月13日

防衛大臣政務官 小野田 紀美